30　論語　先生の偉大さ　　読解のつぼ⑤　古漢の文法の違い

次の文章は、が自分の師である「」について弟子のと話し合っている場面である。なお、『 』は古語の引用で「仲尼」が能力、人格ともに優れていたことを言っている。

　陳 子 禽 ㆓ 子 ㆒ 、「 ㆑ 也。 仲 ㆓ 於 ㆒ 。」子　貢　、「君　　一　言　　㆑、一　言　　㆓ 不　㆒。①言　不　可　不　　也。　　之　㆑　㆑　　也、キ ㆓ 天　之　一㆑　㆓　　而　㆒ 也。夫　子　之　㆓ 　㆒ 、 　『②㆑ 　 、 ㆑　　　、 ㆑ 　　、㆑ 　　。　 也　、 ③其　死　也　。』 ④如㆑ 　　　㆑ 　。」

【原文】

陳 子 禽 謂　子 貢　曰、「子 為　恭　也。 仲 尼 豈 賢　於 子　乎。」子　貢　曰、「君　子　一　言　以　為　知、一　言　以　為　不　知。言　不　可　不　慎　也。夫　子　之　不　可　及　也、猶　天　之　不　可　階　而　升　也。夫　子　之　得　邦　家　者、 所　謂『立　之　斯 立、 道　　之　斯　行、 綏　之　斯　来、動　之　斯　和。其　生 也　栄、 其　死　也　哀。』 如　之　何　其　可　及　也。」

問一　波線部㋐･㋑の「也」の読み方を、それぞれひらがなで答えよ。 〈5点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問二　傍線部①に、訓点を付けよ。〈8点〉

言　不　可　不　慎　也。

問三　傍線部②の解釈として最も適当なものを選べ。〈12点〉

ア　国家を確立しようとすれば国家は確立し、民を教え導こうとすれば民は従い、

イ　国家を確立しようとしてすぐに実行し、民を教え導こうと思ってすぐに行動し、

ウ　国家を確立しようとしたところ国家は確立でき、民を教え導こうとして民を従え、

エ　国家を確立すれば国家を栄えさせ、さらに民を教え導こうとすれば民は行動を起こし、

〔　　　〕

問四　傍線部③を書き下し文にせよ。 〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部④とあるが、子貢はどのような思いを持ってこのように言うのか。最も適当なものを選べ。〈12点〉

ア　自分が仲尼を悪く言うことはできないという仁義の思い。

イ　自分は一生仲尼にはかなわないという諦めに近い思い。

ウ　自分が仲尼に及ぶはずもないという畏敬を含んだ思い。

エ　自分は仲尼のことをまだ理解していないという反省の思い。

〔　　　〕

【解答】

問一　㋐＝なり　㋑＝や〈5点×2〉

問二　言ハ不㆑ル 可㆑カラ 不㆑ル 慎マ 也。〈8点〉

問三　ア〈12点〉

問四　其の死するや哀しむ。〈8点〉

問五　ウ〈12点〉

【現代語訳】

　陳子禽が子貢に言うには、「あなたは謙遜が過ぎます。仲尼先生でも、どうしてあなたよりまさっているだろうか、いやまさってはいない。」と。子貢が言うには、「君子たる者は一言で知者となり、一言で無知者ともなる。（だから）言葉は慎まなければならないのである〔＝不見識なことを言ってはいけない〕。仲尼が（我々の）及ぶことのできない（偉大な方であった）ことは、ちょうど天に梯子をかけても昇ることができないようなものである。先生が国家の政治を執ることは、世間で言う『これ〔＝国家〕を確立しようとすれば国家は確立し、これ〔＝民〕を教え導こうとすれば民は従い、これ〔＝民〕を落ち着かせようとすれば民は（遠方の者も慕い）来て、これ〔＝民〕を激励すれば民は（相互に）和らぎ楽しむ。その人が生きていれば民はその人を慕って集まり、その人が死ねば悲しむ。』とある（が、この言葉はそのまま先生にあてはまるだろう）。（このような先生であるから）どうして（子貢が仲尼に）及ぶことがあろうか、いや及びはしない。」と。

【書き下し文】

にひてはく、「はをすなり。はによりらんや。」と。はく、「はてとり、てとる。はまざるべからざるなり。のぶべからざるや、ほのしてるべからざるがごときなり。のをんは、『をつればにち、をけばにき、をんずればにり、をかせばにぐ。のくるやえ、のするやしむ。』をぞれぶべけんや。」と。

【補充問題】

問１　「来」（５行目）、「所謂」（６行目）の読み方を、送り仮名も含めてそれぞれひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）

問２　「言不可不慎也。」（３行目）について、

(1)　書き下し文にせよ。

(2)　現代語訳せよ。

(3)　なぜそのように言うのか。三十字以内で答えよ。

問３　「猶天之不可階而升也。」（４行目）とは、どういうことか。最も適当なものを選べ。

ア　孔子の言葉は、はるか遠くの天を語るように、つかみどころのないものだということ。

イ　孔子の行動は、一歩一歩確実に高みを目指すように、実直さを備えたものだということ。

ウ　孔子の立派さは、天の高さをはかるように、理解するのが無理なものだということ。

エ　孔子の偉大さは、天に決して昇れないように、手の届かないほどのものだということ。

問４　「如之何其可及也。」（６～７行目）を書き下し文にせよ。

【補充問題解答】

問１　来＝きたり　所謂＝いわゆる

問２　(1)言は慎まざるべからざるなり。

(2)言葉は慎まなければならない。

(3)君子は、その一言次第で知者とも無知者ともなってしまうから。（29字）

問３　エ

問４　之を如何ぞ其れ及ぶべけんや。（」と。）